

五感で感じる交流自治体 第1弾 福島県北塩原村

開催日：5月21日(水) 会場：天沼児童館

福島県北塩原村の「雪室」から届けられた本物の雪を使って、「雪あそびイベント」を天沼児童館の中庭で開催しました。

梅雨入り前の蒸し暑さを吹き飛ばすように、まっ白な雪が登場！参加した子どもたちは、思いがけない“季節外れの雪”に目を輝かせ、大興奮。手のひらで雪を握ったり、足で踏みしめて音を楽しんだり、思い思いに雪とのふれあいを満喫していました。「冷た〜い！」「かたい！」といった元気な声の中庭に響き、雪だるまをつくる子も見られました。

北塩原村の協力で実現したこの催しは、季節を超えた貴重な体験となり、子どもたちの記憶に残る特別な一日となりました。

なお、「雪室」は冬に積もった雪を保管し、その冷気を夏の冷房などに活用する、環境に優しい伝統技術です。自然の力を生かしたこの仕組みは、今も地域で受け継がれています。



福島県北塩原村と連携し、ウクライナ避難者を対象とした就労体験を実施しました

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から3年が経過し、全国的に避難者への支援が自立を促す方向へ変化する中、避難されている方々が日本で安定した生活を築くための「就労支援」が新たな課題となっています。

こうした状況を受け、30名余りが避難している杉並区では、国内での就労を目指す、ウクライナ避難者に向けた就労体験を企画しました。この取り組みは、交流自治体の福島県北塩原村と連携したもので、参加者は村内のホテルで住み込みの就労体験を行いました。

今回の就労体験は4月26日から5月4日までの9日間、「メルキュール裏磐梯リゾート&スパ」で行われ、杉並区内外の7名が参加しました。日本語に不安のある方でも取り組みやすいよう、客室清掃や食器洗い、調理補助など、言語の壁が比較的少ない業務が用意されました。また、その間の休みの日には、会津方面の鶴ヶ城や猪苗代湖、北塩原村にある諸橋近代美術館や五色沼を訪れ、観光を楽しみながらリフレッシュする時間もありました。

実施に当たっては、当協会が取り組んでいる「ウクライナ緊急支援寄附金」を活用して交通費などを支援しました。

参加者の声

今回の研修に参加できて、本当に良かったです。最初は慣れない場所での仕事に少し緊張していましたが、ホテルのスタッフの皆さんがとても親切で、安心して作業に取り組むことができました。部屋の掃除という仕事は思った以上に体力を使いましたが、お客様のために美しく整えることに、少しずつ誇りも感じられるようになりました。

北塩原の自然は本当に美しく、特に湖と山の景色は、まるで絵画のようでした。人も優しく、心が少しずつ落ち着いていくのを感じました。

でも、雪に覆われた建物の一部が少し崩れていたのを見たとき、思わずウクライナの家々のことを思い出しました。砲撃で壊れた建物、そして失われた日常のことがよみがえって、胸が締めつけられました。それでも今、こうして平和な場所で人と支え合って生きていけることに感謝しています。

短い期間でしたが、とても大切な経験になりました。できれば、またこのような機会に参加したいです。(イエプトウシュク ナタリア)



就労体験の様子



観光の様子・鶴ヶ城

Event Information from SACE

交流イベント情報

QRコードから
ご覧下さい。



杉並区人口 日本人 557,612 人・外国人 23,679 人・合計 581,291 人（6月1日現在）

杉並区交流自治体
・ウィロビー市（オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州）
・瑞草区（大韓民国ソウル特別市）
・台北市（台湾）
・名寄市（北海道）
・南相馬市（福島県）
・北塩原村（福島県）
・東吾妻町（群馬県）
・武蔵野市（東京都）
・青梅市（東京都）
・小笠原村（東京都）
・小千谷市（新潟県）
・忍野村（山梨県）
・南伊豆町（静岡県）



すぎなみ交流ニュース

Suginami Cultural Exchange News

第77号

2025年7月



스기나미 교류 소식
杉並的交流消息

発行：一般財団法人 杉並区交流協会

[Suginami Association for Cultural Exchange(SACE)]

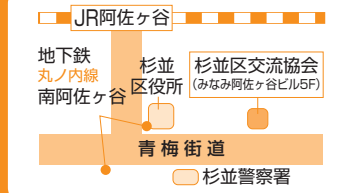
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階

[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]

TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail : info@suginami-kouryu.org

<https://suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



目次

子ども日本語教室.....2

外国人の社会参画企画ほか.....3

五感で感じる交流自治体・第1弾 ほか.....4

東京高円寺阿波おどり台湾公演を開催しました

杉並区交流協会では、令和7年4月18日から21日まで、「東京高円寺阿波おどり台湾公演2025」開催のため、高円寺阿波おどり連協会の選抜メンバー100名とともに台湾を訪問しました。

杉並区と台湾の交流は、平成23年（2011年）に開催された中学生親善野球大会をきっかけに始まりました。平成27年（2015年）からは「東京高円寺阿波おどり」の台湾公演を実施しており、今年で5回目を迎えました。

今回、初めての訪問となった台中市では、市内最古の廟のある南屯区にて公演を行いました。多くの来場者に温かく迎えられ、会場は熱気に包まれ、大いに盛り上がりました。

台北市では松山区、新北市では板橋区にて公演を実施。特に板橋区の公演は、多くの観客が詰めかけ、活気あふれる雰囲気の中での演舞となりました。

また、台北の人気観光地・迪化街^{てきかがい}では、阿波おどりのワークショップを開催し、参加者との交流を深める貴重な機会となりました。本公演を通じて、「東京高円寺阿波おどり」が台湾でも広く親しまれ、杉並区と台湾との文化交流の発展につながりました。



板橋慈恵宮



阿波おどり体験ワークショップの様子

国内交流自治体への阿波おどり派遣

6月14日～16日

北海道名寄市



東京高円寺阿波おどり開催
8月23日(土)・24日(日)

東京高円寺阿波おどりが開催されます。8月23日には、「杉並区交流自治体連」も参加します。

参加予定の交流自治体

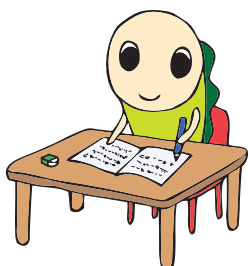
北海道名寄市・群馬県東吾妻町・新潟県小千谷市・福島県北塩原村・福島県南相馬市・東京都青梅市・静岡県南伊豆町

子ども日本語教室

2023年1月より、区内の公立小中学校に通う外国につながりを持つ児童・生徒を対象に、ボランティアが日本語学習の支援を行っています。子どもたちの放課後の学びの場として、にぎやかに活動しています。

6月20日現在、小学生教室は計21名、中学生教室は計21名、合計42名の子ども達が学んでいます。

子ども日本語教室に通う児童・生徒を対象にアンケートを実施しました。



Q1 教室に来る前、どのくらい日本語が話せましたか？

単一回答

①なんでもくわしく話せた	3
②上手に自然に話せた	2
③先生や友だちと話せた	6
④かんたんな質問やこたえが言えた	2
⑤あいさつなどができた	5
⑥ぜんぜんわからなかった	4

Q2 教室で勉強して、日本語が上手になりましたか？

単一回答

①とても上手になった	13
②すこし上手になった	8
③かわらなかった	1

Q3 日本語を使って、生活がしやすくなりましたか？

単一回答

①しやすくなった	21
②すこししやすくなった	1

Q4 日本語を勉強して、生活はどうか変わりましたか？

複数回答

①日本語で友だちとたくさん話せるようになった	21
②学校で困ることが少なくなった	17
③学校で不安に思うことが少なくなった	18
④学校や生活のルールがよくわかるようになった	20
⑤家の近くについてもっと知りたくなった	14
⑥日本の文化や習慣がわかるようになった	14
⑦イベントや行事に参加することがふえた	8
⑧日本人の友だちや相談できる人がふえた	19
⑨生活や学校で必要な情報を自分で集められるようになった	15

Q5 日本語はどんなときに役に立ちましたか？

複数回答

①買い物	18
②学校	21
③病院	10
④電車・バス	10
⑤近くにすんでいる人との会話	8
⑥友だちや知りあいとの会話	7
⑦電話	15
⑧メール	6

Q6 これからどんなことができるようになりたいですか？

複数回答

①近くにすんでいる人と話したい	12
②友だちや知りあいと話したい	19
③電話で話したい	13
④学校からのお知らせがわかるようになりたい	18
⑤病院でお医者さんと話したい	14
⑥メールが書けるようになりたい	9

Q7 日本語をもっと勉強したいですか

単一回答

①はい	22
②いいえ	0

活動状況

「教室に100冊の絵本が届きました！」

杉並区交流協会では、(公財)伊藤忠記念財団の「2024年度 子どもの本100冊助成」に応募して、2025年2月末に100冊の絵本が子ども日本語教室に届きました。

ボランティアの中には図書館司書や読み聞かせ活動をしている方もいて、本を選んだり、どんな活動をするか相談したり、皆さんの協力を得て、絵本を活用した取組みを進めています

申込み・問合せ

子ども日本語教室は、通っている学校の先生を通じて申込みます。詳しくは、以下の事務局へお問い合わせください。

小学生教室：杉並区交流協会 Tel. 03-5378-8833

中学生教室：済美教育センター Tel. 03-6379-3521



日本語を学び始めたばかりの子どもといっしょに絵本を読むボランティア

外国人の社会参画企画

5月17日(土)、国籍を超えて地域とつながることを目的に行われた「山梨県バスツアー」では、日本語を勉強中の外国人と日本人と一緒に様々な体験をしてきました。

集合場所にきた時は初対面で少しぎこちない部分もありましたが、移動中のバス内では、おしゃべりの声が絶えません。自分の国の料理の話や好きな日本の小説の話、難しいと思った漢字の話などで盛り上がり、「勉強になる」「紹介してくれた国に行ってみたい」といった声も聞こえてきました。

最初に向かった民宿では、班に分かれて、ほうとう作りに挑戦しました。粉に少しずつ水を入れ、こねてまとめ、めん棒で伸ばし、包丁で切って、完成させました。説明の中で、聞き取れない言葉があっても、同じ班の人同士で、やさしい日本語や英語などを交えながら意思疎通を図りました。こねるのには、意外と力があること、まとめた生地が意外と伸びることに、驚いていました。おかわりをする人が続出するほど、味にも満足したようです。

次に向かったのは忍野村「森の学習館」。忍野村の生態



山中湖村職員の方からダリア等の説明を受ける様子



民宿でのほうとう作り体験



森の学習館で説明をうける様子



ツアー参加の皆さん



自分たちで名前をつけた苗

やさしい日本語

開催日：6月4日(水) 会場：高千穂大学

外国人とのコミュニケーションをテーマにした特別講義「やさしい日本語で話そう」が開かれました。この講義は、高千穂大学・長谷川万希子教授が担当する「社会福祉論」「ボランティア論」の授業の一環として行われました。講師は、「やさしい日本語」に詳しい日本語教師・深田みのり先生。講義は2コマ(1限目12名、2限目14名)で行われ、計26名の学生が参加しました。

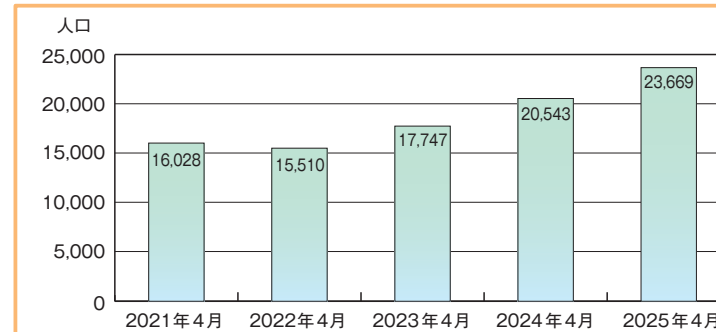
現在、日本では在留外国人の数が年々増加しており、災害時だけでなく日常でも多言語での情報提供が求められています。それと同時に求められているのが「やさしい日本語」です。「やさしい日本語」とは、短く簡潔で分かりやすい表現を使い、外国人にも伝わりやすく工夫された日本語です。

前半の講義では、深田先生が「やさしい日本語」の考え方や使い方について、ユーモアを交えながら解説しました。最初はやや緊張した様子の学生たちも次第にほぐれてきて、話が進むにつれ真剣な表情で耳を傾け、活発な質疑応答も行われました。後半は実践編。杉並区在住の外国人と学生がグループに分かれ、実際に「やさしい日本語」で自己紹介や身近な話題、困っていることなどを話し、交流を深めました。学生たちは積極的に取り組み、和やかな雰囲気の中で会話が弾んでいました。

講義後には、「簡単な日本語で伝えるのが意外と難しかった」「やさしい日本語なら外国人とも会話ができると感じた」といった前向きな感想が寄せられました。学生にとって学びの多い、有意義な時間となったようです。(広報O)



杉並区在住外国人の推移



杉並区の国籍別在住外国人数の推移(上位10カ国・地域)

2021年4月(単位:人)		2025年4月(単位:人)	
国・地域	在住人数	国・地域	在住人数
1 中国	5,279	1 中国	7,488
2 韓国	2,384	2 ネパール	3,736
3 ネパール	2,107	3 韓国	2,818
4 ベトナム	1,324	4 ベトナム	1,976
5 台湾	779	5 台湾	1,042
6 米国	718	6 米国	974
7 フィリピン	524	7 ミャンマー	822
8 英国	290	8 フィリピン	596
9 フランス	221	9 英国	386
10 タイ	211	10 フランス	368